



## 2020年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年09月30日

上場会社名 日本プロセス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9651 URL <https://www.ipd.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上石 芳昭  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 財務統括 (氏名) 坂巻 詳浩 TEL 03-5408-3351  
 四半期報告書提出予定日 2019年10月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年5月期第1四半期の連結業績 (2019年6月1日～2019年8月31日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年5月期第1四半期	1,836	24.2	172	40.3	193	34.3	131	5.8
2019年5月期第1四半期	1,479	6.5	123	△8.7	143	△3.4	124	209.8

(注) 包括利益 2020年5月期第1四半期 277百万円 (34.6%) 2019年5月期第1四半期 206百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年5月期第1四半期	13.41	—
2019年5月期第1四半期	12.82	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年5月期第1四半期	10,327	9,090	88.0
2019年5月期	10,628	8,822	83.0

(参考) 自己資本 2020年5月期第1四半期 9,090百万円 2019年5月期 8,822百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年5月期	—	12.00	—	13.00	25.00
2020年5月期	—	—	—	—	—
2020年5月期 (予想)	—	13.00	—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年5月期の連結業績予想 (2019年6月1日～2020年5月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	3,650	11.2	350	16.9	370	13.4	250	1.1	25.51
通期	7,620	5.6	635	3.2	685	3.0	470	△6.2	48.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は2019年9月30日開催の取締役会において、自己株式の取得について決議いたしました。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」については、自己株式の取得の影響を考慮しております。なお、当該自己株式の取得につきましては、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (重要な後発事象)」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年5月期1Q	10,645,020株	2019年5月期	10,645,020株
② 期末自己株式数	2020年5月期1Q	805,787株	2019年5月期	805,287株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年5月期1Q	9,839,685株	2019年5月期1Q	9,730,150株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出を中心に弱さが続いているものの、雇用・所得環境の改善が続くなか、緩やかな回復基調が継続しました。一方で、米国通商政策の動向や中国経済の減速、中東の地政学的リスクなどにより海外経済は不透明な状況が続いており、企業経営にはより慎重さが求められています。

情報サービス産業におきましては、IoT、AI（人工知能）、ビッグデータなどの急速な進化に伴い、自動運転をはじめ様々な分野でのICT（情報通信技術）の活用が進む一方、サイバー攻撃などへの防御としてセキュリティ技術の高度化も求められています。

こうした環境の中、当社は、「ソフトウェアで社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する」を中期経営ビジョンとする新たな中期経営計画（2018年6月～2021年5月）を策定し、獲得事業の主力化と新分野の開拓、持続的成長への投資、トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービスの継続を基本方針としました。

具体的には、獲得事業の主力化と新分野の開拓としては、前中期経営計画期間中に大きく拡大した自動運転/先進運転支援関連を主力事業化した一方、建設機械や医療関連のIoT分野については継続して拡大を図っております。また、AI、ネットワーク、セキュリティ、クラウドなど更なる新分野の開拓にも積極的に取り組んでおります。持続的成長への投資としては、人材への投資、働きやすい環境や生産設備への投資などを計画的に実施しております。トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービスの継続としては、ソフトウェアの要件定義、開発から運用・保守までをトータルにサービスすることで、顧客に最大のメリットを提供するという取組みを、顧客を巻き込んだ長期的な取組みとして継続しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,836百万円（前年同期比24.2%増）、営業利益は172百万円（前年同期比40.3%増）、経常利益は193百万円（前年同期比34.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は131百万円（前年同期比5.8%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

## (制御システム)

制御システムでは、火力発電所向け監視・制御システムと配電自動化は横ばいで推移した一方、プラント制御は開発案件が増加しました。新幹線の運行管理システムでは、リプレース案件が立ち上がるなど堅調に推移しました。また、東京圏輸送管理システムで開発量が増加したことに加え、在来線の運行管理システムで前年より開発していた案件が検収されたことなどで、制御システム全体で売上、利益とも前年を大きく上回りました。

この結果、売上高は301百万円（前年同期比52.6%増）、セグメント利益は69百万円（前年同期比70.3%増）となりました。

## (自動車システム)

自動車システムでは、自動運転/先進運転支援関連は旺盛な需要が継続し、車載ネットワーク制御や基盤ソフトウェアなどが好調に推移しました。また、車載制御システムのエンジン制御、変速機制御は横ばいで推移し、電動化案件は堅調に推移しました。

この結果、売上高は472百万円（前年同期比25.1%増）、セグメント利益は118百万円（前年同期比37.5%増）となりました。

## (特定情報システム)

特定情報システムでは、前年より受注した画像処理関連が堅調に推移し、危機管理関連は横ばいで推移しました。また、自動運転/先進運転支援関連は画像認識/識別案件などが横ばいで推移しました。

この結果、売上高は131百万円（前年同期比23.1%増）、セグメント利益は21百万円（前年同期比5.6%減）となりました。

## (組込システム)

組込システムでは、ストレージデバイス開発と新ストレージ開発は堅調に推移しました。IoT建設機械関連は、オペレーティングシステム周辺の開発に参画するなど体制を拡大しました。自動運転/先進運転支援関連のベリックソフトウェア開発で、新たな案件を受注するなど堅調に推移しました。

この結果、売上高は255百万円（前年同期比7.2%増）、セグメント利益は61百万円（前年同期比6.1%減）となりました。

(産業・公共システム)

産業・公共システムでは、駅務機器開発、鉄道子会社向けのエンジニアリングサービスが好調に推移しました。医療画像関連やフォトイメージング関連などで体制を拡大し、航空宇宙関連は横ばいで推移しました。また、注力分野としているロボティクス関連は開発規模が拡大し、AI関連とIoT関連は横ばいで推移しました。

この結果、売上高は469百万円（前年同期比33.9%増）、セグメント利益は107百万円（前年同期比22.4%増）となりました。

(ITサービス)

ITサービスでは、構築業務はパブリッククラウド構築案件が増加し好調に推移しました。保守・運用は案件の見直しを行うなど計画通りに推移しました。

この結果、売上高は206百万円（前年同期比1.0%減）、セグメント利益は32百万円（前年同期比11.6%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて301百万円減少して、10,327百万円となりました。この主な要因は、賞与支給及び納税に伴い現金及び預金が減少したことによります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて569百万円減少して、1,237百万円となりました。この主な要因は、賞与支給及び納税が行われた結果、賞与引当金及び未払法人税等が減少したことによります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて267百万円増加して、9,090百万円となりました。この主な要因は、投資有価証券の時価上昇に伴うその他有価証券評価差額金の増加と、連結子会社増加に伴い利益剰余金が増加したことによります。この結果、自己資本比率は、88.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、2019年7月5日公表の2020年5月期の連結業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,296,634	1,668,468
受取手形及び売掛金	1,874,194	1,887,203
電子記録債権	828,710	1,019,191
有価証券	500,857	601,185
仕掛品	212,904	279,632
その他	70,903	147,800
流動資産合計	5,784,205	5,603,482
固定資産		
有形固定資産	231,579	230,542
無形固定資産	21,324	19,778
投資その他の資産		
投資有価証券	4,068,252	4,084,242
その他	523,503	389,736
投資その他の資産合計	4,591,755	4,473,978
固定資産合計	4,844,660	4,724,299
資産合計	10,628,865	10,327,782
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	129,192	108,564
未払法人税等	164,177	16,564
賞与引当金	978,060	338,145
その他の引当金	42,796	33,636
その他	336,724	588,846
流動負債合計	1,650,950	1,085,757
固定負債		
長期末払金	87,319	81,312
引当金	24,961	25,970
退職給付に係る負債	43,104	44,269
その他	166	166
固定負債合計	155,550	151,718
負債合計	1,806,501	1,237,475
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,487,409	1,487,409
資本剰余金	2,244,804	2,244,804
利益剰余金	5,095,223	5,217,804
自己株式	△436,024	△436,024
株主資本合計	8,391,414	8,513,994
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	430,950	581,782
為替換算調整勘定	—	△5,471
その他の包括利益累計額合計	430,950	576,311
純資産合計	8,822,364	9,090,306
負債純資産合計	10,628,865	10,327,782

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年6月1日 至 2018年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年8月31日)
売上高	1,479,422	1,836,824
売上原価	1,149,463	1,438,387
売上総利益	329,959	398,437
販売費及び一般管理費	206,767	225,619
営業利益	123,192	172,817
営業外収益		
受取利息	4,532	4,744
受取配当金	6,619	9,210
受取保険金	10,000	—
保険解約返戻金	886	2,324
その他	870	5,433
営業外収益合計	22,908	21,712
営業外費用		
支払手数料	537	—
寄付金	1,000	—
障害者雇用納付金	350	750
株式報酬費用消滅損	—	513
その他	401	92
営業外費用合計	2,289	1,355
経常利益	143,810	193,174
特別利益		
負ののれん発生益	30,602	—
特別利益合計	30,602	—
特別損失		
固定資産除却損	0	2,474
特別損失合計	0	2,474
税金等調整前四半期純利益	174,413	190,700
法人税、住民税及び事業税	2,846	5,594
法人税等調整額	45,219	53,145
法人税等合計	48,066	58,740
四半期純利益	126,347	131,959
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,635	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	124,711	131,959

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年6月1日 至 2018年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年6月1日 至 2019年8月31日)
四半期純利益	126,347	131,959
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	79,667	150,832
為替換算調整勘定	—	△5,471
その他の包括利益合計	79,667	145,361
四半期包括利益	206,014	277,321
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	204,378	277,321
非支配株主に係る四半期包括利益	1,635	—



## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社でありました国際プロセス株式会社は、当社を存続会社とする吸収合併（合併期日：2019年6月1日）により消滅したため、連結の範囲から除外しております。また、非連結子会社でありました大連艾普迪科技有限公司は、当社グループでの重要性が高まることを見込まれるため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I. 前第1四半期連結累計期間（自 2018年6月1日 至 2018年8月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						合計
	制御システム	自動車システム	特定情報システム	組込システム	産業・公共システム	ITサービス	
売上高							
外部顧客への売上高	197,947	377,616	106,564	238,102	350,928	208,263	1,479,422
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	197,947	377,616	106,564	238,102	350,928	208,263	1,479,422
セグメント利益	40,623	86,322	22,405	65,277	87,888	36,511	339,029

(単位：千円)

	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高		
外部顧客への売上高	—	1,479,422
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—
計	—	1,479,422
セグメント利益	△215,837	123,192

(注) 1. セグメント利益の調整額△215,837千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△206,767千円及びその他△9,070千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「産業・公共システム」セグメントにおいて、株式会社アルゴリズム研究所の全株式を取得し、連結子会社としております。これに伴い、当第1四半期連結累計期間において、負ののれん発生益30,602千円を特別利益として計上しておりますが、当該負ののれん発生益は、報告セグメントに配分していません。

## Ⅱ. 当第1四半期連結累計期間(自2019年6月1日至2019年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						合計
	制御システム	自動車システム	特定情報システム	組込システム	産業・公共システム	ITサービス	
売上高							
外部顧客への売上高	301,971	472,562	131,142	255,128	469,820	206,199	1,836,824
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	301,971	472,562	131,142	255,128	469,820	206,199	1,836,824
セグメント利益	69,169	118,701	21,140	61,271	107,603	32,273	410,160

(単位：千円)

	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高		
外部顧客への売上高	—	1,836,824
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—
計	—	1,836,824
セグメント利益	△237,343	172,817

(注) 1. セグメント利益の調整額△237,343千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△225,619千円及びその他△11,723千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

当社は、2019年9月30日開催の取締役会において、会社法459条第1項の規定による定款の定めに基づき、自己株式を取得することを決議しました。

(1) 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行及び株主の皆様への一層の利益還元を目的としております。

(2) 取得に係る決議内容

①取得する株式の種類	普通株式
②取得する株式の総数	200,000株（発行済株式総数（自己株式を除く）に占める割合 2.0%）
③株式の取得価格の総額	200,000,000円
④取得する期間	2019年10月1日～2019年12月30日